

令和8年度

全国学力・学習状況調査 川崎市報告書
—児童生徒の学習・生活の状況について—

令和8年9月

川崎市総合教育センター

令和8年度全国学力・学習状況調査 川崎市報告書

－ 児童生徒の学習・生活の状況について －

1 概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施状況 ※調査の種類により調査人数は若干変動

小学校 115 校 第6学年 11,536 名

中学校 52 校 特別支援学校 1 校（中学部） 第3学年 8,881 名

(3) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査 小学校調査 - 国語・算数 中学校調査 - 国語・数学・数学

教科に関する調査は、次の（ア）と（イ）を一体的に出題している。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

（イ）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

イ 質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

（本年度の主な調査項目）

基本的生活習慣等、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等、ICTを活用した学習状況、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等、総合的な学習の時間、特別活動、学習に対する興味・関心や授業の理解度等

ウ 学校に対する質問調査 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

エ 調査実施日 令和8年4月23日（木） ※中学校英語調査は4月20日から5月29日にかけて各学校が分散実施

（４）教科に関する調査結果の概要（英語調査の実施は令和5年度以来）

ア 教科に関する調査の平均正答数（問）と平均正答率（％）

	小学校調査			
	国語（13問）		算数（16問）	
	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）
川崎市	8.3	64.0	10.0	63.0
全国	7.9	60.9	9.0	56.4

	中学校調査				
	国語（15問）		数学（16問）		英語
	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均 I R T スコア
川崎市	9.9	66.0	9.6	60.0	532
全国	9.6	63.9	9.1	57.0	499

※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果となっている。

※中学校英語はC B T（各自のG I G A端末で解答）で実施し、I R Tスコア（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示しています。

イ 本市の傾向

上記アのいずれの数値も全国の平均を上回っている。

2 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示すとおりである。

全体の傾向については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。

(△ 上回った主な設問 ▼ 下回った主な設問 5ポイント以上の差に下線)

結果の概要については、内容・領域等ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

(◇ 比較的できている点 ◆ 課題があると考えられる点)

(1) 小学校 国語

ア 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例)・【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する。

- ・【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。
- ・【文章】の特徴として適切なものを選択する。
- ・【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では 69.0%、「書くこと」では 50.1%、「読むこと」では 69.4%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では 68.4%、「情報の扱い方に関する事項」では 56.0%である。全ての内容において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全13問中11問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△ 2一 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。(64.4%、+6.5)

△ 3二 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。(61.8%、+6.2)

△ 3三(1) 目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。(63.4%、+7.9)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

◇ 3 一 話や文章の種類とその特徴について理解することはできている。(79.4%、+2.7)

◆ 1 二(3) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことに課題がある。(66.7%、+1.5)

(イ) 情報の扱い方に関する事項

◆ 2 二 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することに課題がある。(50.1%、+1.2)

◆ 3 二 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。
(61.8%、+6.2)

(ウ) 話すこと・聞くこと

◇ 1 一 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることはできている。
(76.8%、+2.9)

◆ 1 二(1) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。(64.0%、+3.8)

◆ 1 二(2) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。(66.4%、+3.2)

(エ) 書くこと

◆ 2 一 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。(64.4%、+6.5)

◆ 2 四 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。(35.8%、+2.3)

(オ) 読むこと

◇ 3 三(2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることはできている。(75.5%、-0.9)

◆ 3 三(1) 目的に応じて、必要な情報を見付けることに課題がある。(63.4%、+7.9)

エ 授業改善に向けて

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

「比喩や反復などの表現の工夫に気付く指導の充実」

比喩や反復などの表現の工夫は、児童が読んだり書いたりする文章中にも頻繁に見られる。これまでに触れてきたこうした表現の工夫への気付きをまとめて整理することが重要である。

(イ) 情報の扱い方に関する事項

a 「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解する指導の充実」

考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解するためには、考えがどのような理由や事例によって支えられているかを交流したり、読み手の立場に立って振り返ったりするなど吟味することが重要である。

b 「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う指導の充実」

図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解することが重要である。「読むこと」の学習などにおいて、文章を理解するために必要だと判断した複数の語句を丸や四角で囲んだり、関係する語句と語句とを線でつないだりするなど、目的に応じて、図示しながら情報を整理することも重要である。

(ウ) 話すこと・聞くこと

「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実」

資料を活用するなどして表現を工夫する際には、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容について、どのような資料を用意すればよいかを考えたり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることが重要である。

(エ) 書くこと

a 「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える指導の充実」

筋道の通った文章にするためには、つながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えていくことが重要である。「読み手にどのように読み進めてほしいか」という目的を明確にした上で、目的に合ったつながりや配列を選ぶことができるようにすることも重要である。

b 「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実」

引用する目的を明確にした上で、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くことが重要である。また、原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことも重要である。

(オ) 読むこと

a 「目的に応じて、必要な情報を見付ける指導の充実」

目的に応じて必要な情報を見付けるためには、書き手の述べたいことを知るために読む、読み手の知りたいことを調べるために読むなどの目的に応じて、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。

b 「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる指導の拡充」

文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成することが重要である。

(2) 中学校 国語

ア 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

(例)・文中の「投げられる」の単語の類別について説明したものとして適切なものを選択する。

- ・話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く。
- ・書いた文章について、読み手からの助言を踏まえてよい点や改善点を見いだす。
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では 66.8%、「書くこと」では 68.7%、「読むこと」では 62.5%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では 63.8%、「情報の扱い方に関する事項」では 73.1% である。全ての内容において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全15問中14問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△2ー 目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。(74.8%、+6.3)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ◇ 1 一 助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる。(85.9%、+1.6)
- ◇ 1 三 単語の活用について理解しているかどうかをみる。(86.2%、+0.8)
- ◆ 3 一 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことに課題がある。(38.3%、-1.5)
- ◆ 4 二 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。(36.3%、+1.1)

(イ) 情報の扱い方に関する事項

- ◇ 2 三 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことはできている。(73.1%、+2.7)

(ウ) 話すこと・聞くこと

- ◇ 2 二 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることはできている。(70.6%、+0.2)

(エ) 書くこと

- ◇ 3 二 表現の効果を考えて描写することはできている。(92.3%、±0)
- ◆ 3 四 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことに課題がある。
(46.2%、+1.2)

(オ) 読むこと

- ◇ 4 一 文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることはできている。(72.4%、+0.8)
- ◆ 4 四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。(42.8%、+3.9)

エ 授業改善に向けて

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

a 「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うようにする指導の充実」

漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れるよう指導することが求められている。その際には、各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよ

う指導することが大切である。今後、1人1台端末を活用した文章作成の機会が増えていく中で、文脈に即して漢字を正しく使うことに対する意識が薄れていくことが懸念される。そのため、1人1台端末を活用して文章を作成する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択することができるよう、指導することがこれまで以上に重要となる。その際、手書きで漢字を書くことを通して、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目し、字形を正しく捉えたり読みを類推したり、大まかな意味を捉えたりすることが効果的である。

b 「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える指導の充実」

語句の文脈上の意味を捉えることの指導に当たっては、まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉えることが大切である。その上で、語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、さらに、それらの語句と文章中の他の語句との関係を考えることが重要である。

(イ) 書くこと

「書いた文章について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだす指導の充実」

「書くこと」の学習における「共有」では、読み手からの助言などを踏まえて、自分が書いた文章のよい点や改善点を書き手自身が見いだすことが求められる。「推敲」とは異なり、書き終えた文章について、読み手からの感想や助言を基に、自分の文章を振り返り、次の書く活動にどのように生かすかを考えることが重要である。また、「共有」する際の視点については、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」の学習過程を踏まえ、当該学年で重点としている内容を中心に上げることが大切である。

(ウ) 読むこと

「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする指導の充実」

文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、具体的な場面を思い浮かべ、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したものと結び付けるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが考えられる。その際、文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成していくことが大切である。

(3) 小学校 算数

ア 調査問題の内容

学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例) $\cdot \frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く。

- ・一辺が8 cmの立方体の体積を求める式を書く。
- ・インガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く。
- ・二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「数と計算」では67.5%、「図形」では62.8%、「測定」では82.5%「変化と関係」では49.8%、「データの活用」では53.2%である。全ての領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全16問中全ての問題で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△1(2) 直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる。

(70.9%、+7.9)

△1(3) 体積の意味について理解しているかどうかをみる。(51.4%、+11.3)

△1(4) 日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述することに課題がある。(53.1%、+7.9)

△2(2) 百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる。(61.2%、+8.1)

△2(3) 単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる(43.5%、+7.4)

△2(4) 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる。(44.8%、+10.6)

△3(2) 整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる。(64.3%、+6.2)

△3(3) 異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。(53.8%、+9.8)

△3(4) 単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる。(77.4%、+9.3)

△4(3) 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。(24.5%、+6.6)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 数と計算

- ◇ 3(1) 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることはできている。(95.5%、+1.0)
- ◇ 3(4) 単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることはできている。(77.4%、+9.3)
- ◆ 3(3) 異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述することに課題がある。(53.8%、+9.8)

(イ) 図形

- ◇ 1(1) 立方体の体積の計算による求め方について理解している。(75.7%、+3.0)
- ◆ 1(3) 体積の意味について理解することに課題がある。(51.4%、+11.3)
- ◆ 1(4) 日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述することに課題がある。(53.1%、+7.9)

(ウ) 変化と関係

- ◆ 2(3) 単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断することに課題がある。(43.5%、+7.4)
- ◆ 2(4) 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことに課題がある。(44.8%、+10.6)

(エ) データの活用

- ◇ 4(4) 帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることはできている。(78.1%、+3.2)
- ◆ 4(3) 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。(24.5%、+6.6)

エ 授業改善に向けて

(ア) 数と計算

「異分母の分数の大小を判断できるようにする指導の充実」

分数の意味や表し方に基づいて、異分母の分数の大小を判断できるようにすることが重要である。その際、既習の幾つかの方法で分数の大小を比べることができるようにすることが大切である。

(イ) 図形

- a 「図形の観察や構成・分解の活動を通して、立体図形を構成する要素について考察できるようにする指導の充実」
図形の構成・分解をする際、具体物の観察を通して、図形を構成する要素（頂点、辺、面など）について考察できるようにすることが重要である。
- b 「立体の体積について、単位や測定の意味を理解し、体積の計算による求め方について理解できるようにする指導の充実」
体積も面積などと同じように単位の大きさを決めるとその幾つ分として数値化して捉えることができることを理解できるようにすることが大切である。そのうえで、単位体積の立方体をきちんと敷き詰めた1段分の個数と、その段の個数をかけあわせることで、直方体や立方体の体積を求めることができることを理解できるようにすることが大切である。

(ウ) 変化と関係

「日常生活の様々な問題場面において事象を数理的に捉え、数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにする指導の充実」
「割合」及び「単位量あたりの大きさ」の学習では、一つの数量だけでは比べることのできない場面において、関わりのある二つの数量を見だし、二つの数量の関係どうしで比べられることを理解できるようにすることが大切である。

(エ) データの活用

「目的に応じて、データを集めて分類整理し、問題を解決するために適切な表やグラフを選んで表現したり、読み取ったりできるようにする指導の充実」
目的に応じて、統計的に解決可能な問題を設定し、観点を決めてデータを収集、分類整理し、適切な表やグラフを選んで表現したり、読み取ったりできるようにすることが大切である。

(4) 中学校 数学

ア 調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例)・四角形PQRSにおいて、 $PS \parallel QR$ を示すための根拠となる二つの角を選ぶ。
- ・手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する。
 - ・データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。
 - ・ $AB = AP$ 、 $OB = OP$ ならば $\angle AOB = \angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして説明する。
 - ・「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、二つの

度数分布多角形の形と位置を比較して説明する。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「数と式」では70.0%、「図形」では55.6%、「関数」では55.3%、「データの活用」では56.3%である。全ての領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全 16 問中 15 問で全国を上回った。全国との差が 5 ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△ 3 2 直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる。(56.3%、+7.2)

△ 5 起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる。

(68.0%、+7.8)

△ 8 (1) 具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる。(69.6%、+7.1)

△ 8 (2) 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。(54.3%、+8.2)

△ 8 (3) 具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる。(42.3%、+5.2)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 数と式

◇ 1 具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができる。(88.4%、+2.7)

◇ 2 同類項の意味が理解できている。(71.2%、+0.7)

◇ 6 (1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。(74.0%、+0.8)

◆ 6 (2) 事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることに課題がある。(67.6%、+2.6)

◆ 6 (3) 統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(48.5%、+1.9)

(イ) 図形

◆ 3 2 直線が平行になるための条件の理解に課題がある。(56.3%、+7.2)

◆ 8 (1) 具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることに課題がある。(69.6%、+7.1)

◆ 8 (2) 筋道を立てて考え、証明することに課題がある。(54.3%、+8.2)

◆ 8 (3) 証明する事柄の仮定となる辺や角の関係を見いだすことに課題がある。(42.3%、+5.2)

(ウ) 関数

◇ 7 (1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができている。(76.4%、+1.2)

◆ 4 反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることに引き続き課題がある。(50.9%、-4.4)

◆ 7 (2) 数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。
(38.6%、+4.7)

(エ) データの活用

◇ 9 (2) 箱ひげ図と四分位数の対応について理解できている。(77.9%、+2.1)

◆ 5 起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることに引き続き課題がある。
(68.0%、+7.8)

◆ 9 (1) 累積度数の意味の理解に引き続き課題がある。(46.5%、+0.5)

◆ 9 (3) データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに引き続き課題がある。
(33.0%、+1.1)

エ 授業改善に向けて

(ア) 数と式

a 「文字を用いた説明の方針を立てる場面の重視」

予想した事柄がいつでも成り立つ理由を説明するために、方針を立てることができるよう指導することが大切である。例えば、予想した事柄「 $A+B$ の値は、選んだ 2 数の和の 111 倍になる」がいつでも成り立つことを説明するために、「選んだ 2 数をそれぞれ文字で表す」、「文字を用いて A 、 B を表す」、「計算結果を $111 \times (\text{選んだ 2 数の和})$ の形に変形する」といった方針を立てる場面を設定することが大切である。

b 「既に成り立つことが分かった事情を基に、条件を変えた場合について成り立つ事柄を見いだす活動の充実」

数の性質について、すでに成り立つことが分かった事柄を基にして、条件を変えた場合について成り立つ事柄を予想し、事柄がいつでも成り立つことを数学的に説明できるように指導することが大切である。例えば「 $A+B$ 」を「 $A-B$ 」に変えた場合に成り立つ事柄を予想し、その事柄を数学的に説明する活動を取り入れることが考えられる。具体的には、「手順にしたがってできた A と B について、 $A+B$ の値は、選んだ 2 数の和の 111 倍になる」ことを明らかにした過程を振り返りながら、具体的な数や文字を用いることで、 $A-B$ の値は、選んだ 2 数の差の 91 倍となることを見いだすことができるように指導することが考えられる。

(イ) 図形

a 「2直線が平行になるための条件についての理解を深める活動の重視」

2直線が平行になるための条件についての理解を深めるために、四角形PQRSについて、「 $PS \parallel QR$ を示すためには、どの二つの角が等しいことをいえばよいか」について考察する活動などを取り入れることが考えられる。このような活動を通して、具体的な事象における問題解決に、2直線が平行になるための条件を活用できるようにすることが大切である。

b 「具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだす活動の充実」

図形の性質を証明する場面において、証明する事柄の仮定と結論を明らかにする場面を設定することが大切である。例えば、元の角の2倍の大きさの角が作図できる理由を証明する活動において、作図する過程や作図によってできた図形を基に、仮定と結論を明確にできるようにすることが大切である。

(ウ) 関数

a 「反比例の意味の理解を深める活動の重視」

表、式、グラフを関連付けて反比例における変化や対応の特徴を捉えることを通して、反比例についての理解を深めることができるように指導することが大切である。例えば、表のxの値に対応するyの値を求める場面において、単に値を求めるだけでなく、その値になる理由を説明する活動を取り入れることが大切である。

b 「事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実」

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて、それらをどのように用いたかについて数学的に説明する活動を充実することが大切である。その際、表現が不十分な説明を取り上げ、よりよい表現へと洗練する活動を取り入れることが考えられる。

(エ) データの活用

a 「累積度数の意味の理解を深める場面の重視」

データの分布の傾向を捉える活動を通して、累積度数の意味について理解できるように指導することが大切である。例えば、全校生徒の睡眠時間の度数分布表から「この学校で睡眠時間が7時間未満の生徒は何人いるか」について累積度数を用いて考察する活動を設定することが考えられる。

b 「データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動の充実」

二つの集団のデータの分布の傾向を比較してその特徴を捉え、数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れることが大切である。その際、二つの度数分布多角形の形や位置関係など、様々な特徴を基に判断の理由を説明できるようにすることが大切である。

(5) 中学校 英語

ア 調査問題の内容

学習指導要領に示されている5つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）別の目標及び内容に基づき、全ての領域から出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

CBTによる出題で、公開問題16問（全員が取り組む問題7問、一部が取り組む問題9問）と生徒ごとに異なる非公開問題12問を組み合わせで構成されている。

(例)・話を聞き、概要を捉える（「聞くこと」の領域）

- ・自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る（「読むこと」の領域）
- ・短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く（「読むこと」、「書くこと」の領域）
- ・音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す（「話すこと[やり取り]」の領域）
- ・話を聞いて、考えとその理由を話す（「話すこと[発表]」の領域）

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答数と全国との比較

公開問題7問のうち、「聞くこと」の平均正答数は1.3/2問、「読むこと・書くこと」の平均正答数は3.0/5問である。それぞれの領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は公開問題7問全て全国を上回った。公開問題中6問において全国との差は5ポイント以上開いている。

- △1 「注文の場面での店員と客との会話を聞き、客が注文したものを選択する。(67.3%、+7.1)
- △5 「住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する。(63.2%、+7.6)
- △10(1) 「インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する」(56.6%、+9.1)
- △10(2) 「インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」(36.7%、+8.9)
- △11 ① 「与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く」(70.7%、+11.8)
- △11 ② 「与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く」(60.0%、+7.3)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 聞くこと

- ◇2 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることはできている。(82.2%、+3.7)
- ◇3 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることはできている。
(81.3%、+5.3)
- ◆1 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する

- ◆ 4 ことに課題がある。(67.3%、+7.1)
- ◆ 5 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることに課題がある。(49.2%、+5.4)
- ◆ 5 社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることに課題がある。(63.2%、+7.6)

(イ) 読むこと

- ◇ 6 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することはできている。(71.4%、+4.1)
- ◇ 7 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることはできている。(76.4%、+4.0)
- ◇ 8 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることはできている。
(70.8%、+7.0)
- ◆ 9 日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることに課題がある。(54.1%、+5.1)
- ◆ 10 (1) 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることに課題がある。(56.6%、+9.1)

(ウ) 書くこと

- ◇ 11 ① 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することに課題がある。(70.7%、+11.8)
- ◆ 10 (2) 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。(36.7%、+8.9)
- ◆ 11 ② 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することに課題がある。(60.0%、+7.3)
- ◆ 12 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。
(55.2%、+7.7)
- ◆ 13 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。
(55.7%、+11.0)
- ◆ 14 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。
(38.5%、+10.7)

エ 授業改善に向けて

(ア) 聞くこと

○話を聞いて、概要を捉える指導の充実

話題を把握した上で、特定の部分にのみとらわれることなく、全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えることが重要である。指導に当たっては、話の最初から最後まで通して聞き、聞き取った情報や、情報と情報との関係、展開を表す表現などから場面の移り変わりを整理させることが大切である。その後、話を聞き、どのように場面の移り変わりを整理したのかをペアやグループで伝え合ったり、学級全体で確認したりすることが考えられる。

(イ) 読むこと

○文章を読んで、要点を捉える指導の充実

文章全体を通して読み、文章から取り出した複数の情報を比較することで、どの情報が最も重要であるかを判断することが重要である。指導に当たっては、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落の関係などの文章全体の構成を理解することが大切である。また、文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかを話し合う活動なども考えられる。

(ウ) 書くこと

○社会的な話題に関して読んだことについて、考えと理由を書く指導の充実

文章を読み、書き手が最も伝えたいことを捉え、それについて感じたことや考えたことを、理由とともに書くことが重要である。指導に当たっては、文章を読んで要点を捉え、自分の考えとその理由をキーワードとしてメモなどに整理させた後、自分の考えとその理由を書くことが考えられる。書いた文章に対して生徒同士でコメントさせたり、教師がフィードバックを与えたりすることで文章を推敲することも大切である。

(エ) 知識及び技能

○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して、聞く、読む、話す、書く 技能を身に付ける指導の充実

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するだけでなく、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすることが重要である。指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識し、実際に英語を用いた言語活動を行い、必要に応じて言語材料について理解したり練習したりするための指導を行うことが大切である。また、既習事項を繰り返し活用したり、既習事項と新出事項を比較して関連する文法事項を整理したりすることも大切である。

3 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問調査

「児童生徒質問調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数第1位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合である。なお、令和2年度の調査は全て実施していないので、欄を設けていない。

(1) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等【国語】 ※H30は実施していない。

全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校、中学校ともに、全ての質問項目で全国を上回った。平成27年度と比較すると、「国語の授業の内容がよく分かる」について、中学校では5.3ポイント高くなった。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」について、小学校では2.7ポイント、中学校では7.1ポイント高くなった。

今後も、「全ての子どもが分かる授業」を目指して主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、国語を学ぶ意義や言葉を扱うことのよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R8 全国
国語の授業の内容がよく分かる。	83.2%	83.5%	84.5%	—	87.2%	86.9%	87.7%	88.6%	88.1%	85.2%	83.0%	81.5%
国語の勉強は好き。	63.2%	61.6%	64.1%	—	66.6%	60.6%	62.5%	64.2%	64.7%	61.2%	58.8%	57.4%
国語の勉強は大切だと思う。	92.5%	91.8%	91.6%	—	94.4%	94.8%	94.8%	95.3%	95.4%	—	—	—
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4%	89.1%	88.0%	—	92.0%	93.3%	92.4%	93.2%	93.9%	92.1%	91.1%	90.4%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R8 全国
国語の授業の内容がよく分かる。	74.2%	73.5%	79.1%	—	79.8%	83.0%	83.8%	83.1%	84.3%	78.9%	79.5%	76.8%
国語の勉強は好き。	62.5%	60.8%	66.1%	—	64.1%	63.9%	65.1%	65.8%	68.6%	60.8%	63.1%	57.2%
国語の勉強は大切だと思う。	88.9%	88.0%	89.2%	—	91.7%	93.2%	93.6%	92.8%	94.6%	—	—	—
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	82.7%	83.6%	—	89.2%	92.0%	91.4%	90.1%	91.8%	89.9%	89.7%	88.2%

(2) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等【算数・数学】

全国と比較すると、小学校では、全ての質問項目で全国を上回り、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」「数学の勉強が好き」について、全国を上回った。平成 27 年度と比較すると、「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」について、小学校では 2.1 ポイント、中学校では 8.4 ポイント高くなった。

今後も、きめ細やかな指導の充実を図りながら、中学校では、身に付けた資質・能力を実感させられるよう、児童生徒の疑問を大切にし、目指す姿を明確にした授業展開を心がけることが重要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R8 全国
算数の授業の内容がよく分かる。	78.8%	79.3%	78.6%	84.0%	83.4%	85.5%	82.0%	81.6%	82.2%	79.0%	79.4%	77.5%
算数の勉強は好き。	63.8%	66.1%	65.5%	65.3%	69.2%	67.8%	64.0%	61.3%	63.0%	62.4%	62.2%	57.6%
算数の勉強は大切だと思う。	93.2%	92.7%	91.7%	93.0%	94.6%	95.1%	95.6%	94.9%	95.0%	—	—	—
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	90.0%	90.0%	88.3%	90.6%	93.1%	93.5%	93.9%	93.5%	94.4%	93.1%	92.1%	91.0%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R8 全国
数学の授業の内容がよく分かる。	70.6%	69.8%	72.5%	74.2%	74.5%	78.5%	78.7%	72.9%	76.1%	70.1%	74.3%	74.2%
数学の勉強は好き。	55.1%	56.4%	59.2%	56.5%	59.4%	62.2%	59.1%	56.7%	58.5%	54.6%	57.9%	56.1%
数学の勉強は大切だと思う。	79.2%	78.0%	80.2%	82.5%	82.4%	85.0%	86.3%	84.3%	86.9%	—	—	—
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	67.3%	67.3%	68.6%	68.9%	73.0%	75.5%	76.6%	75.0%	78.3%	74.9%	75.7%	76.5%

（３）学習に対する興味・関心や授業の理解度等【英語】

平成３１年度と比較すると、「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。」について、中学校では１．７ポイント高くなった。

今後は、生徒が目的意識をもって英語で自分の考えや気持ちを伝え合う活動に取り組み、対話を通して考えを広げたり深めたりしながら、自分の考えを表現する力を高めることができるよう、授業改善に取り組むことが重要である。

【小学校】

質問項目	H31	R 5	R 8	R 8 全国
英語の勉強は好き。	—	66.7%	66.9%	66.7%
英語の勉強は大切だと思う。	—	92.6%	—	—

【中学校】

質問項目	H31	R 5	R 8	R 8 全国
英語の授業の内容がよく分かる。	68.4%	68.4%	64.2%	64.2%
英語の勉強は好き。	58.2%	57.3%	53.3%	51.2%
英語の勉強は大切だと思う。	87.8%	89.9%	—	—
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4%	89.6%	90.1%	87.6%

※英語調査は３年に一度の調査であるため、調査をしていない年度もある。

（４）規範意識、自己有用感等

平成 27 年度と比較すると、「自分にはよいところがあると思う」について、小学校では 9.6 ポイント、中学校では 17.1 ポイント高くなった。また「将来の夢を持っている」については、全国と同水準となってきた。

「キャリア在り方生き方教育」を通して、子どもたちが自分の価値を認識しながら、他者の価値も尊重する意識を醸成していくことが大切である。また、学級や学校生活において自分自身を見つめ、将来の生き方について考えられる活動を継続することが必要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R8 全国
自分にはよいところがあると思う。	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	79.1%	81.7%	84.4%	85.3%	88.4%	87.0%	85.6%
将来の夢を持っている。	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	77.3%	77.7%	79.9%	80.3%	82.4%	81.3%	81.8%
先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。	—	84.4%	87.1%	87.6%	87.9%	—	88.4%	90.3%	91.2%	93.7%	91.6%	91.4%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7%	95.9%	95.7%	96.9%	97.2%	96.9%	96.9%	97.2%	97.5%	97.5%	96.6%	96.2%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.7%	93.2%	92.6%	95.4%	95.4%	96.0%	95.7%	96.3%	96.9%	97.4%	96.8%	95.8%
友達関係に満足している。	—	—	—	—	—	—	—	91.7%	92.4%	93.1%	92.6%	91.1%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	—	—	—	—	—	—	—	91.6%	91.5%	93.5%	92.8%	92.5%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R8 全国
自分にはよいところがあると思う。	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	76.4%	79.3%	79.8%	83.2%	85.7%	84.7%	84.0%
将来の夢を持っている。	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	65.2%	64.0%	66.1%	66.3%	67.4%	66.7%	67.6%
先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。	—	78.8%	81.0%	83.4%	82.5%	—	88.0%	88.2%	92.6%	93.3%	92.2%	90.9%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	91.7%	91.6%	91.5%	94.1%	93.9%	95.9%	96.0%	95.5%	95.5%	95.7%	95.7%	95.1%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	91.8%	90.9%	90.9%	93.7%	93.4%	94.6%	93.9%	94.6%	95.6%	96.8%	96.5%	95.9%
友達関係に満足している。	—	—	—	—	—	—	—	89.4%	90.8%	91.7%	92.0%	91.2%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	—	—	—	—	—	—	—	87.4%	90.8%	92.0%	91.2%	91.0%

(5) 学習習慣等

全国と比較すると、「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする」について、小学校では 9.1 ポイント、中学校では、11.9 ポイント高くなっている。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	60.6%	59.5%	62.6%	66.4%	69.2%	72.4%	72.5%	71.3%	—	—	—	—
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする。	58.6%	59.0%	61.2%	63.2%	63.6%	61.6%	62.7%	58.9%	60.3%	59.0%	59.0%	49.9%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	45.6%	46.5%	50.3%	49.1%	46.3%	63.4%	57.4%	55.6%	—	—	—	—
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする。	70.2%	68.9%	71.1%	72.5%	72.6%	80.5%	73.2%	72.1%	72.7%	70.9%	73.6%	61.6%

(6) 基本的生活習慣等

基本的生活習慣のこれらの質問項目について全国と比較すると、小学校の「毎日、同じくらいの時刻に起きている」を除いては下回っている。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
朝食を毎日食べている。	94.9%	95.0%	94.5%	93.8%	94.5%	94.0%	94.0%	93.3%	93.2%	93.5%	93.0%	93.3%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.6%	79.1%	78.6%	76.5%	80.4%	81.2%	80.7%	79.5%	80.0%	78.7%	82.5%	82.8%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	89.4%	89.8%	89.5%	87.7%	90.9%	90.1%	89.2%	89.9%	91.3%	91.1%	90.7%	90.7%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
朝食を毎日食べている。	91.1%	90.4%	90.8%	88.7%	89.8%	90.8%	89.6%	89.6%	89.2%	89.7%	88.8%	90.9%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	71.8%	72.6%	73.4%	71.6%	74.3%	76.3%	76.3%	71.6%	74.0%	73.2%	77.9%	80.5%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.2%	90.6%	91.2%	88.6%	90.1%	90.6%	90.1%	89.3%	90.8%	90.5%	91.4%	92.4%

(7) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等、総合的な学習の時間、特別活動

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。全国と比較すると、「5年生まで（1、2年生の時）受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」について、小学校では4.5ポイント、中学校では5.6ポイント、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」について、小学校では3.4ポイント、中学校では7.7ポイント高くなった。今後も、主体的に学習に取り組んだり、自分の考えを広めたり深めたりできるように、継続して授業改善をしていくことが重要である。

【小学校】 ※R 5までは、「学級の生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	80.7%	80.4%	82.1%	82.1%	82.8%	86.2%	85.0%	82.1%	77.6%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	68.4%	70.9%	66.6%	68.6%	69.0%	68.9%	68.4%	70.1%	73.0%	68.2%	66.4%
※学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う。	69.6%	69.6%	70.9%	80.5%	77.8%	82.5%	83.2%	83.9%	87.6%	87.1%	87.2%	85.7%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	73.9%	72.3%	78.3%	—	74.2%	80.7%	81.1%	82.2%	85.3%	87.1%	83.3%	79.9%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	74.5%	75.7%	78.2%	80.2%	86.2%	84.4%	80.9%	77.3%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
1、2年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	74.7%	77.3%	84.6%	81.9%	82.2%	84.4%	83.5%	84.4%	78.8%
1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	62.0%	64.8%	58.5%	62.9%	68.7%	71.7%	73.2%	74.4%	75.5%	76.3%	65.5%
※学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う。	64.3%	66.9%	68.5%	76.7%	73.5%	79.4%	78.9%	80.8%	87.2%	86.2%	88.2%	87.0%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	64.5%	63.8%	71.6%	—	68.5%	79.3%	81.5%	81.7%	88.4%	88.9%	88.5%	80.8%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	65.1%	71.7%	73.4%	75.7%	84.3%	81.6%	82.0%	77.8%

(8) ICTを活用した学習状況

全国と比較すると、「5年生まで（1、2年生の時）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している」について、小学校では3.8ポイント、中学校では11.2ポイント高くなった。

活用頻度や情報活用能力を示す値は全国と比較すると上回っているものの、情報の整理については他の項目に比べ、高くないことがわかる。今後は引き続き、積極的な端末活用を進めていくとともに、情報を整理・分析する学習活動を意識的に取り入れていくことが重要である。

質問項目		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している。		65.7%	67.4%	64.5%	77.3%	72.6%	68.8%
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。		94.6%	95.2%	—	—	—	—
5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。							
PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる。		—	—	—	87.8%	84.0%	79.1%
インターネットを使って情報を収集することができる。		—	—	—	92.9%	87.3%	84.9%
PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができる。		—	—	—	78.1%	74.3%	69.5%
PC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができる。		—	—	—	87.1%	82.3%	74.6%
【中学校】							
質問項目		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している。		64.4%	73.9%	78.9%	86.5%	89.4%	78.2%
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。		92.7%	94.1%	—	—	—	—
1、2年生の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。							
PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる。		—	—	—	88.7%	89.8%	84.8%
インターネットを使って情報を収集することができる。		—	—	—	93.7%	93.0%	90.9%
PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができる。		—	—	—	72.8%	76.3%	69.4%
PC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができる。		—	—	—	86.1%	87.6%	80.0%

※小学校の「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。」「中学校の「1、2年生の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。」に関しては、児童生徒一人一人に対して無作為に選ばれた2項目を回答しているため今年度は数値なし。

（９）地域や社会に関わる活動の実施状況等

令和５年度と比較すると、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」について、小学校では１．７ポイント、中学校では１０．５ポイント高くなった。

平成２８年度から全市で取り組んできた「キャリア在り方生き方教育」を土台とし、子どもたちが、自分が住む地域との関わりを自分事として捉えて主体的に学習できるよう、継続した指導が必要である。

【小学校】 ※Ｒ４までは、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	53.1%	55.3%	47.4%	52.5%	57.0%	45.0%	41.1%	47.5%	—	—	—	—
※地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	—	—	—	—	—	—	—	80.0%	85.4%	84.5%	81.7%	80.1%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	34.3%	35.0%	31.9%	38.6%	39.9%	31.2%	27.1%	27.7%	—	—	—	—
※地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	—	—	—	—	—	—	—	59.5%	75.2%	73.6%	70.0%	72.3%

(10) 学校外でのSNSや動画視聴等の利用状況

【質問項目】

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか。（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

	4時間以上	3時間以上4時間未満	2時間以上3時間未満	1時間以上2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満	持っていない
小学校（川崎市）	19.2%	12.7%	18.7%	21.7%	13.7%	8.9%	4.8%
小学校（全国）	21.9%	15.7%	20.0%	20.9%	11.0%	5.7%	4.5%

	4時間以上	3時間以上4時間未満	2時間以上3時間未満	1時間以上2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満	持っていない
中学校（川崎市）	28.6%	19.1%	25.5%	18.2%	5.9%	2.0%	0.4%
中学校（全国）	28.8%	20.8%	25.3%	16.9%	5.1%	1.9%	1.0%